

I A分科会 高校生新聞の役割と可能性を考える

私たちはなぜ新聞を作っているのだろう。高校生新聞だからこそ果たせる役割と可能性とは何だろう。「何を、何のために、どのように伝えていくのか」自校新聞の実践を基に討議し、自分たちの新聞づくりのエネルギーにしよう。

◆具体的な討議内容

1. 高校生新聞にできることはどんなことか

- ① 自校新聞でどんな記事をどのように載せているか、具体的に報告します。
- ② 自校新聞で取り上げた記事や特集、局説、コラムなどを基に、読者の反応や新聞に掲載したことによる変化、改善点などを報告します。
- ③ ①②を踏まえ、高校生新聞が校内でどのような役割を果たしているかを話し合います。
- ④ 高校生新聞が校内だけではなく、地域・社会に対してできることはないか、自校新聞で取り組んだことがあれば報告し、地域・社会に対してどんな働きかけができるか、可能性について考えます。

2. 新聞を作る上での困難をどう乗り越えるか

- ① 新聞を制作する上で困難なことがあれば報告します。
- ② ①の困難に直面したとき、どのように対処したのか、参加校の実践を通して意見を交流し、これからの制作活動について考えます。

3. 高校生新聞を発行する意義や可能性は何か

- ① 新聞局（部）の活動や新聞制作を通して感じたやりがいや、喜びについて報告します。
- ② なぜ私たちは新聞を作るのか、高校生新聞を発行する意義について考えます。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出）

- ・上記の具体的な討議内容1～3の項目について、A4判1枚にまとめてください。
- ・わかりやすく提言する上で必要な自校新聞等があればA4判のPDFを添付してください。また添付した新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。（大会1日目の10月8日（水）15：00の分科会打合せ時に、各分科会会場に置いてください。）
- ・提言者レジュメ（必要があれば自校新聞）は、8月29日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。（PDFファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

- ・9月5日（金）以降に当番校HPにアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだ上で、上記の具体的な討議内容について、自校の状況や自分の考えを項目ごとにまとめてください（A4判、縦置き、横書き）。その際、「提言者レジュメ」で述べられている内容についての感想や意見も入れてください。
- ・参加者レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記してください。
- ・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。
- ・参加者レジュメは、9月29日（月）までに指定の場所にPDFファイルでご提出ください。
- ・参加者は、10月1日（水）以降に当番校HPにアップロードされる「参加者レジュメ」をダウンロードしてご持参ください。

◆当日持参するもの（全員）

- ・「提言者レジュメ」（紙またはPDF） ※提言する上で必要な自校新聞等は提言者が持参します。
- ・「参加者レジュメ」（紙またはPDF）

※討議する上で必要な自校新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。

（大会1日目の10月8日（水）15：00の分科会打合せ時に、分科会会場に置いてください。）

◆分科会打合せ（全員）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

- ・提言者レジュメ等 送付先メールアドレス：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・参加者レジュメの提出先フォルダ：Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ等>各分科会フォルダ
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください
- ・提言者レジュメ等・参加者レジュメ
ダウンロードのURL：http://www.abanan.hokkaido-c.ed.jp（当番校HP）

I B分科会 高校生新聞をどのように作るか（企画・取材を考える）

各学校ではどのように企画を立て、取材先や取材内容を決めているのでしょうか。各学校の実践を基に意見交換し、よりよい企画や取材のためにはどうすればよいか討議します。よい紙面作りのための企画会議の持ち方についても考え、自分たちの新聞作りの参考にしましょう。

◆具体的な討議内容

1. 自校新聞で取り上げた企画について

- ① 各学校ではどのようにして企画を決めているのか。企画会議の持ち方や企画書など、企画を立てるまでの過程について、自校新聞を基に報告し、意見交換をします。
- ② どのような角度や視点で取材を進めたか等、自校新聞を基に報告し、意見交換をします。
- ③ 自校新聞で取り上げた企画の成功した点・失敗した点、読者の反応などを報告します。
- ④ 企画や取材を進めていくなかで苦労したこと・困ったことについて、その解決策を考えます。
- ⑤ アンケートや資料、写真等の工夫や活用法について、意見交換します。

2. 企画会議を充実させるために

- ① 企画会議が充実している学校から、どのように企画会議を進めているのか実践報告をしてもらい、企画書の書き方・企画会議の進め方について学び、意見交換します。
- ② 班ごとにテーマに基づき、どう企画を組むか模擬編集会議を行います。今回は、「メディアミックス」を意識し、ラジオ番組とのコラボ企画を考えてみたいと考えています。

※特別協力 森本 優さん（ラジオパーソナリティ 代表番組 AIR-G「IMAREAL」）

- ③ 班ごとに発表します。
- ④ 高校生新聞ではどのような点に留意して企画・取材を進めていくと良いのか考えます。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出）

- ・上記の具体的な討議内容1について、A4判1枚（縦置き、横書き）にまとめてください。
- ・わかりやすく提言する上で必要な自校新聞等があればA4判のPDFを添付してください。また添付した新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。（大会1日目の10月8日（水）15:00の分科会打合せ時に、分科会会場に置いてください。）
- ・提言者レジュメ（必要な自校新聞も含む）は、8月29日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。（PDFファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

- ・9月5日以降に当番校HPにアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだうえで、上記の具体的な討議内容について、自校の状況や自分の考えを項目ごとにまとめてください。（A4判 縦置き、横書き）
- ・必要な自校新聞などは、A4判PDFで添付してください。
- ・レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を必ず明記してください。
- ・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。
- ・参加者レジュメと必要な自校新聞は、9月29日（月）までに指定の場所にPDFファイルでご提出ください。
- ・参加者は、10月1日（水）以降に当番校HPにアップロードされる「参加者レジュメ」をダウンロードしてご持参ください。

◆当日持参するもの（全員）

- ・「提言者レジュメ」（紙またはPDF） ※提言する上で必要な自校新聞等は提言者が持参します。
- ・「参加者レジュメ」（紙またはPDF）

◆分科会打合せ（全員）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

- ・提言者レジュメ等 送付先メールアドレス：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・参加者レジュメの提出先フォルダ：Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ>各分科会フォルダ
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください
- ・提言者レジュメ等・参加者レジュメ
ダウンロードのURL：http://www.abanan.hokkaido-c.ed.jp（当番校HP）

Ⅱ A分科会 よりよい新聞を作るために他校紙に学ぶ

全道大会は各学校の新聞が集まる場。他校紙に目を通し、自校紙と比較。じっくり検討してみよう。他校の実践に学びつつ、自校新聞の活性化につなげよう。長く新聞局顧問を務めた田口耕平先生を講師に迎え、「新聞クリニック」を行う。新聞をどう見るか、その批評の観点を知り、新聞理解につなげてほしい。

◆具体的な討議内容

1. 提言校の新聞について、良い点・改善点を話し合う（企画の立て方、見出し、レイアウト、写真など）
2. 自校紙について、企画、制作段階からの作成過程での工夫や困難などを報告し、良い点・改善点などを話し合う
3. 田口先生のクリニックを通し、高校生新聞の見方・観点を学び、それによって各校の新聞を批評し合う。

・分科会Ⅰ（午前） 提言者レジュメの発表

提言者レジュメについて班討議後、班毎に発表
質疑応答

・分科会Ⅱ（午後） 講師による各校新聞のクリニック

クリニックされた内容について班討議後、班毎に発表
質疑応答

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出） ※事前提出なし

- ・自校紙の良いところと反省点を記載し、併せて自校新聞を当日配布します。また他校へ聞きたいことがあれば記載してください。
- ・レジュメの左上に、提言者名・分科会名を必ず明記して下さい。
- ・配布する「提言者レジュメ」と「自校新聞」は、分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。
（大会1日目の10月8日（水）15：00の分科会打合せ時に、各分科会会場に置いてください。）

◆参加者レジュメは不要

- ・「参加者レジュメ」の提出はありません。

◆事前に送付するもの（新聞コンクール不参加校のみ）

- ・自校紙のクリニックを希望する学校は「自校新聞」を1号分、田口先生宛に **9月5日（金）** までに**1部** 郵送して下さい。

住所：〒002-8504 北海道札幌市北区屯田9条7丁目
北海道有朋高等学校 田口 耕平 先生

◆当日持参するもの（全員）

- ・自校紙の良いところと反省点はメモしておき、自分用に1部持参してください。
- ・配布する「自校新聞」は分科会名と参加者番号を明記の上、分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。
（大会1日目の10月8日（水）15：00の分科会打合せ時に、各分科会会場に置いてください。）

◆分科会打合せ（全員）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

Ⅱ B 1 分科会 よりよい新聞を作るために① 取材して記事を書こう

元北海道新聞記者の渡辺多美江さんを講師に迎え、取材の基本と写真撮影について 学び、模擬共同記者会見を行います。実践的な取材方法について学び、人物紹介記事 を作成し、編集技術の向上を目指します。

◆具体的な実習内容

1. 基礎編

- ① 記事の読み方
- ② 記事作成のための準備と取材の基本

2. 実践編

- ① 質問の考え方と質問のしかた
- ② 写真撮影のしかた
- ③ 見出しのつけ方
- ④ 取材に臨む心構えと準備
- ⑤ 模擬記者会見
- ⑥ 記事作成（作成した新聞は、後日エコーセンター内で展示する可能性があります。）
- ⑦ 各班の発表（記事・写真・見出し）→自己評価と班内での相互評価、講師からの評価
- ⑧ 講師からの講評と分科会の振り返り
- ⑨ 新聞クリニック

◆事前に送付するもの（全員）

- ・クリニックして欲しい自校新聞（1号分）を、**9月5日（金）**までに指定の場所にPDFファイルでご提出ください。
ファイル名を「分科会名_自分の参加者番号_高校名（「高校」をつけない略称）_氏名」にしてください。
（例：ⅡB①_31_札幌開成_山空大地）

◆当日持参するもの（全員）

- ・各校の自校新聞を当番校HPからダウンロードしたデータとそれを見られるデバイス、または印刷したもの
- ・筆記用具、取材ノート、カメラ(スマホ可)等、取材や記事書きに必要なもの。
※原稿用紙・新聞割付用紙は当番支部で用意します。

◆分科会打合せ（全員）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

- ・クリニックしてほしい自校新聞の提出先フォルダ：Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ>各分科会フォルダ
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ・Ⅳ分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください
- ・クリニックしてほしい自校新聞（1号分）
ダウンロードのURL：http://www.abanan.hokkaido-c.ed.jp（当番校HP）

Ⅱ B 2 分科会 よりよい新聞を作るために② レイアウトの技術を高めよう

帯広三条高校教諭の土田泰裕先生を講師に迎え、「読者を引きつけるレイアウト」をテーマに、班討議と実習を通して学びます。

◆具体的な討議・実習内容

1. 自校新聞をもとに交流

- ① 班に分かれ、自己紹介も兼ねて、自校新聞（自身がレイアウトを担当した紙面）を紹介します。
- ② 班長(司会を兼ねる)と記録を班で選びます。
- ③ 班の中で、一番よいと思う紙面を選び、どこが良かったのかを会場の参加者全体に説明します。

2. 読者を引き付けるレイアウトについて確認

- ① 講師から、レイアウトのポイントについて確認します。
※レイアウトの基本、割り付け用紙の描き方、写真の選び方・撮り方、見出しの役割、など。
- ② レイアウトのポイントをもとに、班内で話し合いながら、自校新聞の改善案を考えます。

3. 同じテーマでレイアウトを考えよう

- ① A4サイズの割り付け用紙をもとに、紙面のレイアウトを各自で考えます。①A4サイズの割り付け用紙をもとに、紙面のレイアウトを各自で考えます。
※写真、見出し、ワッペンが講師が用意したものの中から選び、割り付け用紙に貼り付ける。
- ② 班の中で、一番よいと思う紙面を選び、どこが良かったのかを会場の参加者全体に説明します。
- ③ 講師、助言者からポイントを確認する。

4. テーマを設定して、レイアウトを考えよう

- ① B4サイズの割り付け用紙をもとに、いくつかのテーマから一つ選び、紙面のレイアウトを各自で考えます。
※写真は、実際の構図を意識して、班員をモデルに撮影したものを使う。
見出しは、完成紙面を意識して、具体的なものを書く。難しければ○○○...でもよい。
- ② 班内で、完成した割り付けについて良い点と改善点を話し合う。
- ③ 班の中で、一番よいと思う紙面を選び、どこが良かったのかを会場の参加者全体に説明します。
- ④ 講師、助言者からまとめの講評をします。

◆当日持参するもの（全員）

・自校新聞（自分がレイアウトを担当したもの。それぞれ左上に、自分の参加者番号・分科会名を必ず明記）を分科会参加人数（司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部用意し、分科会会場で当日配布して下さい。

・筆記用具、はさみ、のり、定規、カメラ・カードリーダー（スマートフォン・USBケーブル可）
※割り付け用紙、スクリーントーンは当番支部で用意します

◆分科会打合せ（司会者・運営者・助言者・講師）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

Ⅱ C分科会 地域取材して新聞を作ろう

帯広柏葉高校新聞局顧問の小林哲也先生を講師に迎え、さけ・ます増殖事業協会の網走捕獲場（ウライ漁）と網走漁業協同組合で取材をし、新聞を作成します（B4判1面）。実際に見たり触れたりした物や地元の方の話をもとに、網走の基幹産業や環境対策について新たな情報を発信する新聞の作成を目指します。お互いの持っている編集技術を出し合い、全道の仲間と交流を深めながら新聞作成をします。完成した新聞は取材先に届けられます。参加者は上限30人。1班5人まで。

◆具体的な実習内容

1. 分科会打合せ

どのような記事を書けるか相談し、質問を考える。役割分担・割り付けも考える。

2. 当日のおおまかな時程

| | |
|---------------|--------------------------|
| 8:45 - 11:15 | 網走捕獲場・網走漁業協同組合で取材（バスで移動） |
| 11:15 - 15:30 | 編集会議・新聞完成（適宜、昼食休憩） |
| 15:45 - 16:10 | 班ごとに紙面について説明し、全体で相互評価 |
| 16:10 - 17:00 | 講師の先生から講評と分科会のまとめ |

3. 新聞作成

新聞(B4判1面、手書き)を作成する。レイアウトは用意したテンプレートの中から選び活用します。

- ① 写真は担当者の意見を取り入れ、編集長が選びます。
- ② 写真が確定したら編集長はレイアウトを確定し、各担当者へ記事の予定数を伝えます。
- ③ 記事作成者は、レイアウトが決まる前から記事を書き始めます。予定数より長く作成し、記事ができたら仮見出しをつけて編集長に渡します。
- ④ 編集長は記事を読み、見出しやキャプションを決めます。

4. 完成した新聞を印刷し、班ごとに相互評価した後、講師の先生から助言をいただき、記事の書き方や新聞の作り方についての学びを深めます。

5. 講師の先生から講評をいただき、分科会のまとめをします。

◆当日持参するもの（全員）

メモ用紙、筆記用具、カメラ等取材に必要なもの、雨具(天候に応じて)

※原稿用紙、割付用紙、トーン、飾り罫線は当番支部で用意します。

はさみ、カッター、のり、ペン、定規も当番支部で用意しますが、あれば各自持参して下さい。

※網走捕獲場では、鮭を取り扱うこともあるので服装にご注意ください。(ジャージ等を推奨します。)

◆取材先について

1. 網走捕獲場（北見管内さけ・ます増殖事業協会 参事 宮越 靖之 様）

北海道オホーツク総合振興局管内における、さけ・ます増殖事業を安定的かつ効率的に展開し、さけ・ます資源の維持増大に努め、国民生活に必要な水産物の安定供給を図ることを目的としています。

2. 網走漁業協同組合（代表理事組合長 新谷 哲也 様）

カニ類や鮭をはじめとした様々な魚種が水揚げされる網走漁協。オホーツク海沿岸では水揚げ量も取扱金額もトップクラスを誇っています。

◆分科会打合せ（全員）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

Ⅲ分科会 校内生活・社会生活について考えよう

校内生活・校外生活における様々な問題を考えます。今回は「校則」と「SNS利用」といったテーマを切り口に「情報化社会の今」について話し合います。身近にある問題から社会問題を深く考えることは、新聞に記事として取り上げる際にも重要になってきます。各校の状況や自分の考えを出し合い、新聞にどのように取り上げていくかを討議します。

◆具体的な討議内容

1. 校内生活における「校則」と「BYOD端末」の問題点

- ① 各校の「校則」の現状について紹介する。また、いわゆる「ブラック校則」などの問題点について検討する。
- ② 各校の「BYOD端末」の使用状況と決まりについて紹介する。学校生活でどう影響するかなどについて交流する。
- ③ 高校生新聞で（学校を良くするために）「校則」と「BYOD端末」の2つをそれぞれどのように取り上げたらよいか話し合い、どのようなアクションをすることができるかを考える。

2. 社会生活における「SNS利用」の影響

- ① 社会生活の中での「SNS利用」の利点と問題点を挙げる。その他にも、「SNS利用」でのトラブルについても話し合う。
- ② 「SNS」との適切な関係性や取り扱いについて、既存の記事（闇バイト、オーストラリアでのSNS規制など）を調べる。また、日本でのSNSへの対策について考える。
- ③ 日本でSNS規制を取り上げるべきかについて、全体で討論する。
- ④ 高校生新聞で（社会を良くするために）「SNS利用」の問題などについて、どのように取り上げたら良いか話し合う。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出）

- ・次の内容について、A4判1枚にまとめてください。

1 ①自分の学校の「校則」の紹介し、ブラック校則と思われるものがあれば示す。

②自分の学校の「BYOD端末」の使用状況ときまりを紹介する。

2 ①社会生活の中での「SNS利用」の利点と問題点を挙げる。また、自分や身近なところでのSNSでのトラブルがあれば、紹介する。

②「SNS」との適切な関係性や取り扱いに関する既存記事を調べ、1つ紹介する。

- ・わかりやすく提言する上で必要な自校新聞等があればA4判のPDFを添付してください。また添付した新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。

（大会1日目の10月8日（水）15:00の分科会打合せ時に、分科会会場に置いてください。）

- ・提言者レジュメ（必要があれば自校新聞）は、8月29日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。（PDFファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

- ・9月5日（金）以降に当番校HPにアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだ上で、次の内容について、A4判1枚（縦置き・横書き）にまとめてください。

1 ①自分の学校の校則と照らし合わせて、提言者の学校の校則（1 ①）に対する感想や意見

②自分の学校と照らし合わせて、提言者の「BYOD端末」の使用状況ときまりの紹介（1 ②）に対する感想や意見。

2 ①提言（2 ①）に対する感想や意見。

②提言（2 ②）で紹介された記事に対する感想や意見。

- ・参加者レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記してください。
- ・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。
- ・参加者レジュメは、9月29日（月）までに指定の場所にPDFファイルでご提出ください。
- ・参加者は、10月1日（水）以降に当番校HPにアップロードされる「参加者レジュメ」をダウンロードしてご持参ください。

◆当日持参するもの（全員）

- ・「提言者レジュメ」（紙またはPDF） ※提言する上で必要な自校新聞等は提言者が持参します。
- ・「参加者レジュメ」（紙またはPDF）

◆分科会打合せ（提言者・司会者・運営者・助言者）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

・提言者レジュメ等 送付先メールアドレス：hokkaido.shinbun@gmail.com

・参加者レジュメの提出先フォルダ：Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ等>各分科会フォルダ
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください

・提言者レジュメ等・参加者レジュメ
ダウンロードのURL：http://www.abanan.hokkaido-c.ed.jp（当番校HP）

IV分科会 支部活動を活発にするために

前全道新聞専門委員長の菅原淳先生を講師に迎え、各支部・各学校の状況や活動内容を報告し、日頃の活動における悩みから支部活動、全道大会のあり方まで様々な意見を交換します。北海道全体の高校生新聞の活動が充実していくための方策を討議します。

◆具体的な討議内容

1. 各支部の活動状況と課題、課題についてはその解決の方策を考えます。
 - ① 支部大会の日時・具体的な内容、その成果と課題について発表し話し合い、課題の解決の方策を考えます。
 - ② 各支部の現状（各校の部局員数、活動状況、課題など）について話し合い、課題の解決の方策を考えます。
 - ③ 各校の生徒数が減少していく中でどのように局員を獲得するか、経験を共有します。
2. 支部大会と関わりのある全道大会のあり方について
 - ① 高校生新聞の必要性和全道大会の意義について考え討論をします。
 - ② 各支部の活動・支部活動の活発化に貢献する全道大会のあり方について考えます。
 - ③ 支部活動に全道大会をどう生かしていくか考えます。
 - ④ 来年度の第IV分科会で話したいことについて意見交換をします。
3. 全道大会・支部大会以外でよりより新聞作りのためにできることはあるでしょうか。

昨年度の苫小牧大会第IV分科会では、石狩支部の宮崎ほのかさん（札幌開成）から、以下のような提案がありました。

（大会時の提案に本人が補ったものです）

多くの支部で参加校や部局員数の減少に悩まされている昨今、より活発な議論や技術の向上を行っていくためには全道大会のように支部を超えて交流したり、様々な新聞の要素について講師の方から学ぶことができる場が重要であると考えます。

全道大会の規模での交流は難しいが、遠方の支部はオンライン開催などを視野に入れた上で、2、3支部程度で年1度、交流会やワークショップを行う「ブロック大会（仮）」を行うことを提案する。特に石狩支部以外の支部では、一度支部大会（対面形式）を開催するだけでも交通費がかかってしまう上、集まったとしても参加校・人数が少なくなってしまう。であれば、新入部員への基礎的な指導などが終わるであろう夏頃に規模の大きい大会（必要に応じて支部大会と同等に）をまとめて開催しても良いのではないかと。金銭面・人員面で難しいだろうが、部局員のモチベーションや技術の向上のためにも一度検討すべき。

この提案について、検討し、可能か、不可能か、できるとすればどういうやり方が各学校の活動に支障がないように実現可能か、考えてみましょう。また、この提案以外にもアイデアを出して話し合いましょう。

◆支部代表生徒のレジュメについて（該当生徒のみ提出）

- ・上記の具体的な討議内容1について、A4判1枚にまとめて下さい。
 - ・わかりやすく提言する上で必要な自校新聞等があればA4判のPDFを添付してください。また添付した新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。
- （大会1日目の10月8日（水）15：00の分科会打合せ時に、分科会会場に置いてください。）
- ・「支部報告（提言者レジュメ）」は、8月29日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。
- （PDFファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

- ・9月5日（金）以降に当番校HPにアップロードされる「支部報告（提言者レジュメ）」を読んだ上で、上記の具体的な討議内容1について、支部・自校の状況や自分の考えを項目ごとにまとめてください（A4判、縦置き、横書き）。
- ・参加者レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記してください。
- ・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。
- ・参加者レジュメは、9月29日（月）までに指定の場所にPDFファイルでご提出ください。
- ・参加者は、10月1日（水）以降に当番校HPにアップロードされる「参加者レジュメ」をダウンロードしてご持参ください。

◆当日持参するもの（全員）

- ・「支部報告（提言者レジュメ）」（紙またはPDF） ※提言する上で必要な自校新聞等は提言者が持参します。
- ・「参加者レジュメ」（紙またはPDF）

◆分科会打合せ（支部代表者・司会者・運営者・助言者・講師）：10月8日（水）15:00から分科会会場で実施

- ・支部報告等 送付先メールアドレス：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・参加者レジュメの提出先フォルダ：Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ>各分科会フォルダ
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください
- ・支部報告等・参加者レジュメ
ダウンロードのURL：http://www.abanan.hokkaido-c.ed.jp（当番校HP）